

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第114号



今年は外出自粛で、お花見やゴールデンウィークの行楽を控えた方が多いかと思えます。その甲斐もあって、特定警戒都道府県でも新型コロナ肺炎の感染者数は徐々に減ってはいるようなので、自粛の効果が出ているのかとは思いますが。外出の自粛も長引いてきており、テレビでも、自宅のできるアクティビティや、テイクアウトの話題が増えてきたようです。そろそろ制限解除という言葉も出てきていますが、感染の機会を減らしつつ、安全に化学療法が継続できる方が多くなればと思っております。

弘法は筆を選ばず

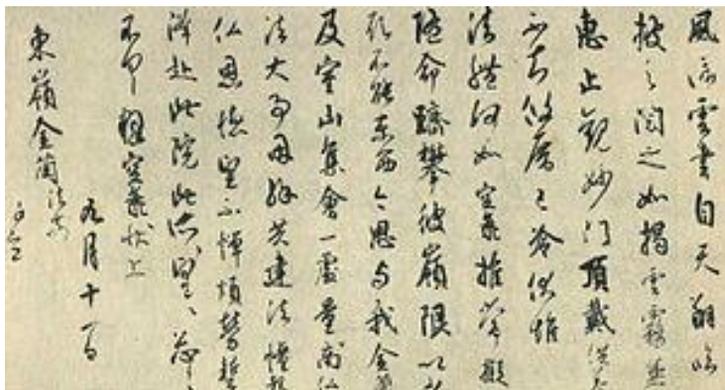
弘法大師は三筆の一人であり、「弘法は筆を選ばず」、「弘法も筆の誤り」とことわざに登場するくらいよく知られた書の達人です。とはいっても弘法大師・空海は西暦774年—835年に生きた人物ですので、この時代の書が残っていること自体、国宝級なのですが、「風信帖」(国宝)という素晴らしい書が東寺に綺麗な状態で残されています。「風信帖」は、本来、最澄に宛てた手紙ですが、最澄の返信も『久隔帖』として残っています(これも国宝です)。最澄の字は、几帳面な感じがしますが、最初から最後まで丁寧に書かれています。

『風信帖』の字には見覚えがあります。特に書き始めは、墨の太い—細いのメリハリからしても王羲之ですね。王羲之の代表的な作品「蘭亭序」が書かれたのが西暦353年なので、空海は王羲之の書を学ぶ機会があったと思えますが、それにしても抜群のうまさです。段々とペースが上がってくる後半の書は、完全な王羲之風でなく空海風となっており、空間の取り方なども、王羲之・蘭亭序の緻密、精細な感じとは異なり、透明感、清潔感のある書風です(個人的見解です)。空海は唐に遣唐使として留学しますが、当時の唐も王羲之風の書が好まれたので、日本から来た留学僧の素晴らしい書は当然ながら注目されたでしょうね。この辺りは、空海の留学時代を描いた陳舜臣の歴史小説、『曼荼羅の人』に詳しく書かれています。この間、何十年ぶりにこの本を手にとってみました。また、最後まで読んでしまいました。文庫になっており、上下二巻です。

さて、今回、書に関して書いたのは、万年筆の慣らしのため、佐藤一斎の『言志録』の文章を書き写していたのですが、

心の邪正、気の強弱は、筆画之を掩うこと能わず。喜怒哀懼、勤惰静躁に至りても、亦皆諸を字に形わす。

とあったからで、自分の書いた字をも直すとともに、書の本をパラパラと見ていたからなのです。



『風信帖』 東寺所蔵



万年筆

最近、万年筆を使い始めています。といっても、中学生から大学を卒業するまで、ノートを取るのには基本的に万年筆だったので、久方ぶりに再開した感じです。

元々はプラチナの万年筆を愛用していましたが、今はパイロットとペリカンのものを使っています。二本使っているのは、文字の太さを換えて使うためです。ボールペンとの違いは、字を書く時のスピード感の違い(万年筆の方がやや遅いこと)と、文字の払い、止めの点で、自由度が高いことでしょうか。

最近はカラフルなインクが増えたということもあり、万年筆を使うのが密かなブームのようで、色の異なるインクを使うために何本も万年筆を所有する人も増えているということです。



開花が早まっています

毎年、花が咲くとスマホで写真を撮っていますが、写真を撮った日付を比較すると、全般に花の開花が2週間程度早いようです。タイムの開花が、昨年(2023年)の5月24日から5月9日に早回りし、ピエール・ド・ロンサールの薔薇のできた方を見ても2週間早いので、多くの薔薇が今月中に開花するのではないかと思います。

特に日当たりの善い場所が、早まっているようで、本来早咲きのラブソディ・イン・ブルーよりも先に、日当たりの良いピエールが咲くかもしれません。恐らく、暖冬の影響と思いますが、今年の夏は暑いのでしょうか？

皆様の周りでの開花状況はいかがでしょう。



MEMO

5月のがん化学療法科の予定

5月2 - 6日	ゴールデンウィーク
5月10日	母の日
5月12日	診療応援(工藤先生)
5月19日	診療応援(平出先生)
5月26日	診療応援(工藤先生)

